

今日も「一丁あがり」

第12話 「コンバインの排わらチェーン駆動部品を明日までに復元します！」の巻



皆さん、こんにちは！ 冬が訪れ、

コオロギはいなくなつたものの、今度はレッドブルの飲み過ぎで眠れなくなつてしまつたロボストス高垣でございます。この連載も今月で丸1年!! 編集部が温かいサポートや皆さんからいただくご相談や激励が力となり、1年間完走できました。皆さまのおかげと感謝しています。

2017年は、農業の専門誌でコラムを書いていること自体がまさかの出来事ですが、オフィス移転にメンバー増加と弊社では大きな変化が続きまして。本当に先のことつてわからないものです。未来を模索しながら引き出しを増やし、いまでできることをフットワーク軽くこなす。今回はそんな案件にお付き合ひいただきますように。

あれこれ想定して 即決力で勝負

コメの収穫時期に1カ月近く続いた雨、極め付けに台風21号が直撃。

お困り事があれば力になりたいと心配していたところに、僕と近い世代のヤンチャな農機具屋・I倉機械さんから着信がありました。「辛セキコンバインHJ6120の排わらチェーン駆動部分のジョイントパイプが摩耗して動かなくなつた。メーカーは在庫切れで部品が取れない。11月中旬なのにまだ30ha残つていて本当に困つた」と。翌週にはまた天気が悪くなるかもしれません。決して簡単な依頼ではありませんが、僕の心はもちろん、「明日までに直します!」。

【今回の作業はコチラ】

- ①昼から急遽トラックをUターン! 1時間走らせて壊れた部品を受け取る。パイプに溶接されたパーツが摩耗しているのを剥がして、製作・交換が必要。注意点を整理して作業工程をイメージ。協力工



写真1: 駆動部分にはめる四角形だったはずの穴が、摩耗してすっかり真ん丸にナメている状態に



写真2: 「パーツの接ぎ目の線が見えますか?」ここを切断してパーツを取り出す



写真4: 製作したパーツを溶接して復活したパイプ

写真3: 超特急でイメージどおりに仕上がってきたパーツ

場に事前に連絡しておく

- ②溶接位置と溶け込み深さを確認する。パーツの接合部分をサンダーで一部削ると少し深めだとわかる
- ③材質の見立ては「S45C」。溶接で硬化しやすい材質なので、高速度タターで溶接部分を切断し、パイプに挿入された部分はパイプの反対側から叩いて取り外す
- ④交換が必要なパーツは溶接時の収縮など考慮して設計。夜、協力工場に翌日午前仕上げで発注する
- ⑤パイプの切断面を旋盤でキレイにし、塗装を剥いで、溶接の下準備



高垣達郎 (たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農機具産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

をする

- ⑥仕上がったパーツを確認。野書^けいて位置を出して、溶接する
- 長時間の使用で摩耗した部品が直り、コンバインは約束どおり翌日には無事に復活しました!
- 絶対になんとかしたい状況に直面して初めて、真剣に考え、その結果として人は壁を突破できるのだと思います。今年は限られた時間で収穫するべく各地で新たな稲作営農スタイルが見つかったかもしれません。毎年変わる天候に農家さんがどう準備されているのか、いつかお酒でも飲みながらじっくり聞いてみたいものです。日本の農業経営の可能性を広げられるよう、弊社も日々引き出しを増やして準備してまいります。

来年も引き続きお付き合ひの程、よろしくお願ひ申し上げます。それでは皆さん良いお年を! ということで、今日も一丁あがり〜